



～もう一人の自分たち～

校長 熊本 寿美

ふるさと宇美を愛し、志をもって、たくましく未来を生きる生徒の育成

(文責：教頭 土器 修)

学校経営に係る学校関係者評価の報告 ～第3回学校運営協議会の紙面実施～

2月3日(木)第3回学校運営協議会を紙面にて実施しました。本来ならば学校運営協議会委員の皆さまから直接学校経営及び学校評価についてご意見をいただくところですが、本県におけるまん延防止等重点措置の実施により紙面実施といたしました。ここでは、学校関係者評価委員の皆さまのご意見の一部と評価数値(4段階評定尺度の平均値)をお知らせいたします。

<方策1【磨き合う集団づくり】>

3.50 (二次評価比+0.1p)

- ・校内外の行き届いた黙働掃除や校内での生徒の気持ちのよいあいさつには、感心、感動いたします。
- ・様々な日常の場面で、集団のリーダーとなり、頑張る。その姿を他の生徒が見て、認め、互いに思い合うことが理想だと考えます。年齢的にも難しい時期ですが、この時期に取組を継続していくことが、子どもたちが高校生、社会人に成長していく中で身に付けることにつながると考えます。

<方策2【学び合う集団づくり】>

3.50 (二次評価比+0.4p)

- ・学力向上の成果が見られます。「分かるまで教えてくれる」「誉めてくれる」の項目の生徒評価の数値が全学年で高まっており、学校全体で目標を共有できていることが有効な手立てとなっています。ICTの効用感も9割を超えているので先生方の研修と授業改善の努力の成果が出ていると言えます。感想文や条件作文と関連付けた視写の取組がよいです。
- ・コロナ禍で、「夢」へと向かう子どもたちが実際に働く人々と直接関わる機会が減っていることは残念ですが、校内で少しでも働くことへの取組をいただいています。

<方策3【組織の機能化】>

3.30 (二次評価比+0.1p)

- ・学校、家庭、地域の三者が目標を共有することが大切だと考えます。
- ・学校文化として、各学年がチームとしてしっかり機能していると感じています。

<方策4【教職員研修の充実】>

3.60 (二次評価比+0.2p)

- ・長引くコロナ禍でICT活用の技能に係る相互研修は大変だと考えます。
- ・若い先生方が多い中、キャリアステージに応じた人材育成が大変だと考えます。チーフ・マネージャー制やベテラン教師のモデル化など有効だと思いました。

<方策5【教育環境の充実】>

3.40 (二次評価比+0.1p)

- ・学力に係る取組、学校発信、人間力につながる取組、生徒会による発信がきちんと整理されていて素晴らしいと思います。
- ・教育環境の中で一番大切なのは、先生方の姿だと思います。先生方が楽しくやりがいをもって仕事ができるよう負担が少しでも軽減できるように取り組んでほしい。その姿が子どもたちにとって一番いい環境だと思います。

<指導の基盤「率先垂範」「師弟同行」>

3.50 (二次評価比+0.1p)

- ・学力向上、生徒による教員イメージの向上、生徒による授業アンケートにおける意識向上、Q-Uにおける満足度等の向上等の結果から、学校の取組が成果につながっていると感じます。
- ・「鍛えて、ほめて、励まして」が素晴らしいと思います。

<全体について>

3.70 (二次評価比+0.3p)

- ・コロナ禍の学校運営に心から感謝いたします。生徒にできる限り経験、体験を積みませてもらいたいと思います。
- ・コロナ禍1年目の経験を踏まえて改善すべき点を全教員で共通理解して一緒に実践していることが伝わります。教員だけでなく、生徒会活動も含めて生徒自身がよりよくなるようとする意欲が伝わります。生徒のなりたい未来に向けて学校、地域が応援しているという関係も見えてきました。

なお、ここでご紹介した学校関係者評価委員の皆さまのご意見・評価を含めた本年度の学校評価を、3月25日(金)までに本校ホームページ (<https://www.town.umi.lg.jp/site/umiminamijs/>)にてご報告させていただきますのでご覧ください。

地域とともにある学校づくりの推進 ～感謝と絆の会の実施～

2月21日(月)に、本年度、本校の教育活動にご支援いただいている地域の皆さまをお招きして「感謝と絆の会」を実施いたしました。昨年度はコロナ禍のため実施できませんでしたが、本年度は、1年生がオンラインでリモート参加する形をとる等の感染症対策を講じての実施となりました。南中生は、朝の登校時の見守りや各種講演会の講話、ボランティア活動等でお世話になったことをふり振り返り、ご支援いただいた皆さまへの感謝の気持ちを深め、この会でその思いを伝えることができました。最後に、皆さまを代表して校区コミュニティ運営協議会会長、太田猛様から「自分の希望や夢を実現してほしい」という激励の言葉をいただき、会場は温かい雰囲気になりました。この会を通して、南中生は地域を愛し、地域に貢献する一員になりたいという決意を新たにすることができました。これからも本校では、教育目標「ふるさと宇美を愛し、志をもって、たくましく未来を生きる生徒の育成」の実現に向けて、地域とともにある学校づくりの推進に努めてまいります。会を終えた生徒のふり返りの一部を紹介いたします。



1学年リモート参加の様子



参加いただいた地域の皆さま

- ・ご招待した方以外にも多くの方々に私たちは支えられていることを知り、私たちは幸せだと改めて思いました。
- ・「いつもありがとうございます」を付け加えて地域の人にあいさつができるようにしたいです。
- ・地域の人と合唱したり、交流したりする機会をもっと多くもてるようになればよいと思います。
- ・皆さんにお会いできて嬉しかったです。自分も地域の一員として地域に役立つことをしたいと感じました。
- ・これまで以上に地域の活動に参加し、感謝の気持ちをもって地域に貢献していきたいと思いました。
- ・地域の皆さんのおかげで安心して生徒会活動や登下校を行うことができました。地域とのつながりを大切にしたいです。

PTAとの連携による指導の基盤づくりの推進 ～PTAあいさつ運動の実施～

2月7日(月)に1学年、9日(水)に2学年、10日(木)に3学年のPTAあいさつ運動を本校昇降口前にて実施しました。3日間大変冷え込む朝となりましたが、合計14名の役員、サポートスタッフの皆さまにご参加いただきました。ご参加いただいた皆さまのおかげをもちまして、朝の昇降口では、いつも以上の元気なあいさつが交わされ、和やかな雰囲気になりました。子どもたちも、保護者の方に見守られているという安心感で、嬉しそうに登校していました。今回が今年度最後のPTAあいさつ運動となりました。指導の基盤づくりに1年間ご協力いただきましたことに心より感謝申し上げます。



1学年あいさつ運動の様子



2学年あいさつ運動の様子



3学年あいさつ運動の様子

ふるさとを愛し、社会に貢献できる生徒の育成に向けて ～通学路クリーンアップ作戦の実施～

生徒会環境委員会の提案で、「ふるさと宇美」に感謝の気持ちを伝えることを目的に通学路クリーンアップ作戦を実施いたしました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底して生徒が登校時に通学路に落ちているゴミを拾う活動を行いました。

＜感染症対策＞

- ①活動は、密を避けるために学年毎に実施する。
 <2月15日(火):2学年、2月24日(木):1学年、3月1日(火):3学年>
- ②活動中は、生徒はビニル手袋を着用し、火ばさみを使用する。
- ③活動後は、生徒は石鹸を使って手洗い、手指消毒を徹底するとともに、使用した火ばさみを消毒する。

各学年が実施する朝、通学路の歩道や周辺の駐車場でゴミを拾いに取り組む生徒の姿を見ることができました。活動を終えてゴミを分別し、手洗い、手指消毒する生徒の表情から、地域に貢献できた達成感、地域への感謝の気持ちを感じることができました。ここでは、生徒の活動のふり返りの一部を紹介いたします。

- ・ゴミが1つも落ちていませんでした。なぜきれいに保たれているかを考えさせられました。地域の方々の手間が省けるように自分もゴミを積極的に拾いたかったです。
- ・地域の皆さんが元気よく過ごせるように意識してゴミを拾いました。
- ・宇美町の過ごしやすい環境をつくるためには一人一人がゴミを見つけたら拾うという意識をもつことが大切だと感じました。教室でも積極的にゴミ拾いたいです。
- ・地域のゴミ拾いやボランティア活動にも参加したいです。

- ・宇美町はゴミが少ないと思いました。ゴミを拾ったり、処理したりする地域の人がいるおかげだと思い、ポイ捨てする人がいたら注意できる人になりたいと思いました。
- ・ゴミが多い場所、全くない場所様々でした。普段意識していないと気付かないこともあるので、これからはもっと地域に関心をもって生活しようと思いました。
- ・ゴミを拾っているときに地域のCSの方から「ありがとう」と言われたのでとても温かい気持ちになりました。いつも通っている地域に感謝の気持ちをもっていきたいです。

- ・ゴミがあまり落ちていませんでした。ゴミを捨てないのが宇美町の良さであると感じました。
- ・1、2年生が拾ってくれたり、町のマナーがよくなったりしたのでゴミが落ちていませんでした。これからもよい習慣を続けていこうと思いました。
- ・地域のボランティア活動に参加して大好きな宇美町をきれいで住みやすい町にしていきたいです。
- ・登校するときに通学路をきれいにできました。中学校3年間大変お世話になりました。その恩返しを少しでもできたいと思います。

地域の皆さまにおかれましては、通学路クリーンアップ作戦に取り組む生徒を温かく見守っていただきましたことに心よりお礼申し上げます。

キャリアデザイン「夢実現」プログラム「夢をえがく」の推進 ～2学年夢実現講演会の実施～

本校では、生徒が将来の夢をもち、学校での学びや生活につなげるキャリアデザイン「夢実現」プログラムを推進しています。2月15日(火)に2学年夢実現講演会を行いました。3学年への進級を控えた2学年では、この時期に高等学校から講師をお招きし、来年度の進路実現に向かう意識を高めることを目的に実施しています。本年度は、九州産業大学付属九州高等学校の尾関泰生先生から「今この時期に何をしておかなければならないか」を演題にご講話をいただきました。講演会に参加した2年生は、食い入るように講話に耳を傾け、学校や家庭での生活をふり返って自分の課題について考えました。1年後の自分を思いえがき、進路実現に向けて目の前の課題を克服しようと強く決意することができました。2年生一人一人の日常での継続した取組が成果となってあらわれることを期待します。講演会を終えた2年生のふり返りの一部を紹介いたします。

- ・自分は「基礎」をすごく簡単なもので意味がないと思い込んでいました。しかし実際は「基礎」問題があまり解けていないことが多かったです。まず、基礎のことからできるようになって、そこから難しいことに挑戦していきたいです。
- ・印象に残ったのは「失敗を恐れるな」という言葉です。僕は、授業で発表するとき周りの反応が少し怖くなり、きちんと意見を言えず、悔しいと感じていました。高校に合格できると信じて、失敗を恐れず、弱さを克服したいです。
- ・勉強が苦手なので、勉強を続けている友達を見ると尊敬していました。「自分から頑張る人にはよい結果が待っている」という話にモチベーションが上がり、友達みたいにになりたいと強く思いました。



活動中の様子



活動を終えた登校時の様子



活動後の手洗い等の様子



尾関先生の講話の様子